



全国から患者が集まる 腰椎・脊椎領域の内視鏡手術最先端

医療法人岩井医療財団
岩井整形外科内科病院
東京都江戸川区

岩井整形外科内科病院（稲波弘彦理事長・院長、60床）では、椎間板ヘルニアと脊柱管狭窄症などの内視鏡手術件数が年間900件にも上り、国内トップクラスの実績を誇る。手術患者の半分以上は東京都以外から来院しており、今後はさらに医療の質を高めて海外からの集患も視野に入れている。



（上）モニター画面を見ながら、内視鏡下手術に取り組む稲波院長。常により低侵襲で再発の少ない手技を探求
（左）JR小岩駅からほど近い下町にある岩井整形外科内科病院。奥にメディチェック画像診断センターが隣接

- ① 明るいきりばり室。椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症のための術前術後のプログラムも確立。患者との笑顔のコミュニケーションを心掛ける
- ② 古閑比久佐脊椎内視鏡医長による手術。院長含め4人の医師が内視鏡下手術に取り組む



①



最適な治療を求めて 内視鏡手術の最先端へ

厚生労働省の平成21年度DPCデータでは、椎間板ヘルニアと脊柱管狭窄症の内視鏡手術件数のトップに位置するのが岩井整形外科内科病院。在院日数の長さも5番以内に入り、その医療水準の高さを物語る。一般マスコミの注目度も高く、TVや雑誌などの取材で取り上げられることが多い。その結果、都内だけでなく全国から患者が集まってきている。稲波院長は「患者さん、スタッフ、医師が満足するために、立ち止まることなく常によりよいものを求めている」と語り、この3月には企業と共同開発した口径12ミリ（従来は16ミリ）の内視鏡を用いた世界初の手術を行った。また、やはり3月から開始したenSpire（エンスパイヤー）椎間板切除術は傷口が針穴程度で、患者への負担が少ないので1泊2日で腰椎椎間板ヘルニアの手術ができる。治療成績がよく再発も少ない最新の低侵襲手術であり、欧米では広く行われているが、アジアでは同院が初めて導入した。

ただし、最初から手術ありきの姿勢ではない。痛みの原因を的確に診断するためにMRIやCTで詳細な検査を行うことはもちろん、各種のブロック療法、ラジオ波やレーザー治療など患者の症状や要望に合わせて治療法は幅広い。また、代替医療にも目を向けている。この5月からは東京有明医療大学と連携して、薬物・運動・鍼灸による治療効果を確認するべく研究をスタートさせる予定だ。



②

詳しく情報提供して 患者の安心と信頼を高める

同院のホームページは疾患・治療・手術についてていねいに紹介し、手術の動画もアップしている。またマスコミやメディアの取材にも積極的に応えるので、同院の知名度も高まってきた。その背景を「痛みを苦しむ患者さんに最適な治療を選択してもらうためには、なにより分かりやすい情報提供が必要」と稲波院長は話す。加えて1階ロビーにあるブースでは、手術のプレゼンテーションプログラムを自由に何度でも見ることができ、患者がより理解を深められるようになっている。

手術室を増築した2006年からは内視鏡手術の一部始終をビデオ撮影してきた。手術後に希望があれば、編集・修正一切なしで患者に渡される。

「撮影によって患者さんには安心を、医師にはより緊張感を与える。痺れが残ったような場合にも映像を元に詳しく説明することができ、患者さんの不信感や



- ③ 痛みの原因を的確に診断するためにMRI (1.5テスラ)は欠かせない
- ④ 人間ドックではPET-CT健診を実施
- ⑤ MRIやPET-CT、マルチスライスCTを配置したメディチェック画像診断センター。間接照明でやさらかな雰囲気が漂う
- ⑥ 薬剤師3人がベッドサイドでの服薬指導に活躍。同院は60床ながらDPC病院
- ⑦ 専用ブースで、手術のプレゼンテーションプログラムを見る。各手術の説明が10分程度にまとめられている
- ⑧ CO₂削減に取り組む同院では、ゴーヤのグリーンカーテンで夏の日差しを避ける



いななみひろひこ
稲波弘彦 理事長・院長

現在、当院には全国から患者さんが来ており、いわゆる医療ツーリズムにも眼を向けています。医療ツーリズムと言うとよいイメージを持たれないようですが、本旨は医療のグローバル化、国際的に評価されるアメニティを伴った高い医療水準の実現です。たとえば韓国では、医療通訳の24時間サービスや医療事故の調査など国が支援して医療ツーリズムに取り組んだ結果、医療の質が飛躍的に向上しています。日本の国民皆保険は今まではよかったのですが、採算の取れる高度医療や、良い食事などの高いアメニティを望む患者さんには応えていません。このまま手をこまねていけば、日本には救急医療と高齢者医療しか残らず、待機医療は患者さんが海外へ出て行くのではないかと危惧しています。日本の医療が国際的な競争力を持つためには、個々の病院の努力では限界があります。規制緩和と国の支援が必須であると考えています。

無用な訴訟を防ぐことにつながる」(稲波院長)

2003年にいち早く導入した電子カルテでは、患者にもインターネットで血液検査、尿検査、細菌検査等の結果が閲覧でき、入院中の患者の検温表を自宅から見ることもできる。この徹底した情報開示の姿勢が患者からの信頼につながっている。

環境保全に取り組む

同院のもう一つの特徴は、環境保全への真摯な取り組み。2008年には医療法人では日本で初めてカーボン・オフセットとして「二酸化炭素排出権」を購入し、インド風力発電開発プロジェクトに寄与。CO₂排出量を算出して目標を定め、財団を挙げてCO₂削減に努めている。(平尾朋子)

DATA

(2011年3月現在)

診療科目：整形外科、リウマチ科、形成外科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、内科、消化器科、循環器科
病床数：60床
常勤職員数：142人 内訳：医師9人、看護師54人(正39、准15)、看護助手19人、薬剤師3人、理学療法士8人、放射線技師10人、検査技師4人、MSW1人、医師事務作業補助2人、その他32人
入院基本料：一般病棟入院基本料10対1

平均在院日数：11.3日

病床利用率：78.25%

関連施設：メディチェック画像診断センター、

介護老人保健施設いらい敬愛園

住所：〒113-0056 東京都江戸川区南小岩8-17-2

TEL：03-5694-6211

URL：http://www.iwai.com/